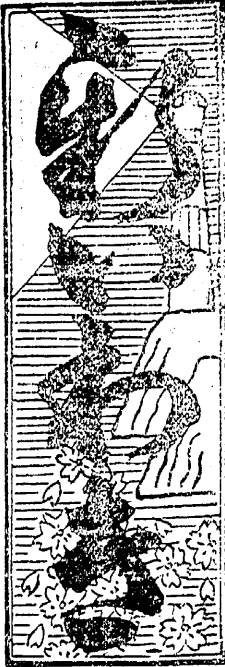


刊夕日五十二月十



発行所 新報社 印刷所 新報社 電話 新報社

# 常磐炭田を中心の空前の赤化計画暴露

## 檢舉総数實に百六十名 常磐炭礦労働組合潰滅

東北の關門、重要産炭石炭の産地として一萬の労働者を擁する黒ダイヤ王国・常磐炭田を赤一色に塗り潰さんとした石城郡常磐の赤化事件が解決された、昭和二年の常磐炭礦大争議の過程に於て結成された舊評議會系の警備一般労働組合が其後数次の變遷を経て昭和六年常磐炭礦労働組合(略稱常炭)に發展、日本労働組合全國協議會日本礦山労働組合(略稱全協日礦)の影響下にあつて昨年六月頃から内郷村炭礦地帯を中心に活潑な行動を開始するや日礦本部は常炭の組織確立を特に重要視して優秀なる本部員をオルグとして派遣し來り、本年三月頃から愈々本格的組織活動に進入した、この情勢を窺取した平署では警察本部と連絡し嚴重に視察内偵を繰り返すうち豫てその動靜を注意中であつた入山炭礦坑夫山田文雄が五月九日夜日礦本部機關紙「礦山労働者」を懐中して入坑せんとする所を檢舉追及した結果、同人は昭和六年から七年にかけて山口、福岡兩縣下に於て全協組織運動に従事し本年三月末日礦本部から常炭入山分會オルグとして派遣された星野篤三であること自白したのでこの旨直ちに警察本部に報告、同時に同事件に關する一切の新聞記事を差止め此の機會に常炭の潰滅を期し翌十日高坂坑分會オルグ市村政美(三)及び常炭失業責任者大井川基司(三)を檢舉したのを始め入山、警備兩礦から組合員多數を檢舉したが最高オルグの所在が判明せぬため十三日堀部特高課長が來平し自ら指揮に當り平署員を將勦不眠不休の活動の結果同月二十五日平町城山下のアヅトに於て最高オルグ小川治雄(三)及び同人のハウスキーバーとして活躍した佐藤ヒロ(三)の兩首魁を逮捕、引續き七月中旬まで組合員を始め外廓的グループと認められる文學サークル員及びシンパ關係等を續々檢舉した、その數九十六名、参考人等を合すれば實に百六十名の多數に上つた、これらは峻厳な取調への結果、前記五名を残して夫々將來を嚴重訓戒の上釋放、前記五名のうち星野、大井川、佐藤は治安維持法違反として起訴、小川、市村の兩名も近く起訴される見込みとなつたので當局は二十五日午後五時同事件に關する新聞記事の一切を解禁しこゝに常磐炭礦地帯に於ける恐るべき赤化運動の全貌が暴露した、



小川治雄



星野篤



市村政美



大井川基司



佐藤ヒロ

# 發電所を襲撃して 一大ストライキ決行 恐るべき彼等一味の陰謀

石城地方に於ける極左運動は 退學佐藤ヒロ及び第三高等學校在學中に思想運動に關係して退學処分を受け郷里警備村に歸省中の大井川基司の三名で最高指導部を形成し非合法性を確立すると共にアヅトを設けて地下運動を續け菊地、市村の兩名を表面に立て、失業者救済事業即行、政府米廉價買下(米よ)

## 僅か一ヶ月間に 組合員八十名獲得 本格的組織活動に入る

然るにオルグ坂本某は昨年十一月何れか脱走し、代つて日礦本部から三・一五事件被告で保釋出所中の共産黨員小川治雄がオルグとして潜入し來り先づ組合組織の目標を常磐三大炭礦即ち警備炭礦、入山炭礦、古河炭礦に置き三大會社の各坑にA、B、C、X、Y等の符號を付し各會社の内情を探りつゝあつた、本年三月オルグ星野篤が來るやこゝに常炭組織は全く確立した即ち小川、佐藤、市村、星野を前記各坑の責任者と定め各坑に組合の分會を確立し分會確立の上は分會代表者會議を開き會社に對する要求事項を

## 小學校教員の 讀書會を利用 シンパ網結成を企つ

これより先き常炭組合を持ち十數回に亘つて史的的教員が中心となり街頭分子學校訓練吉田さだ三(三)等第三小學校訓練部(三)等左傾的教員が裏面から此等の會合を巧みに指導し其のメンバーを利用して組合員の獲得及び全協運動の貯水池となるべきシンパ網を結成せんと企てた

## 外廓運動 部た(三)等の左傾的教員が裏面から此等の會合を巧みに指導し其のメンバーを利用して組合員の獲得及び全協運動の貯水池となるべきシンパ網を結成せんと企てた

が之は組合幹部の強烈なテロが却つて意志薄弱なインテリ層の彼等の激進する所となり全然失敗に了つたばかりでなく其の後組合は斯かる街頭分子の結集を輕視し現在就業中の炭礦労働者の組織に主力を集中する方針を探るに至つた、このグループは昨年來から本年初めにかけて自然解體し前記三名の教員は、件關係者として檢舉されたので本年六月就職を退き林は神戸に、渡部は親戚に預けられ、吉田も自宅でも何れも全く轉向を誓つてひたすら謹慎してゐる

**短歌會を利用** 組合員獲得戰術 一味の組合員獲得戰術として變つてゐたものに短歌會の利益がある、入山炭礦人事係長的小山田滋氏は人も知る「潮音」同人で昨年一月若任以來同氏門下を中心に短歌會を開いてゐたが昨年十一月頃警備炭礦會所で短歌會を開いた時一名の青年が頻りに定規(三十一文字)の短歌を排撃し新時代の短歌はプロレタリアの感情を率直に表現する自由律短歌でなければならぬと主張してゐたが今日考へるとこの男は常炭幹部の一人で常夜集つてゐた十四、五名の出席者のうち九名までが件の青年に影響されて組合に加盟してゐたと云ふ

**檢舉された女 合計十八名** 中に選炭婦十餘名 今回の全協事件の主なる檢舉者は平署の九十一名を筆頭に四會の四名、植田署の一名合計九十六名であるがこの中婦人は佐藤ヒロを始め合計十八名、この内藤は女教員二名、警備事務員、同タイプリスト各一名、選炭婦十四名である

# 事件發覺の端緒は オルグ星野の檢舉

## 入山人事係長小山田氏の殊勳

今回の石城共産黨事件發覺の端緒となつたものはオルグ星野篤の檢舉であるが、同入山人事係長小山田氏が功勞者の一として特筆するべきである。

星野は本年三月入山分會オを命ぜられて縣内潜入を計し、同月中旬同入山人事係に出頭して坑夫採用を嘆願したが断られたので湯本町の匪徒事業に出役し至極眞面目に働らく所から模範人夫として工事監督の氣に入りとつたのを機會に監督に炭坑入りを嘆願、四月十日小山田氏と變名して後山夫として採用された、入社した星野は炭坑では入坑の際身体検査をするが非常箱を調べない事を知り入坑の際には非常箱のおかす入

## 特高課長が總指揮 平署變裝隊の活動

### 小川、佐藤捕縛の苦心

星野の自白によつて常炭組合の活動状態を知つた平署では吉宗の母松永キキが来りリヤ直ちにこの旨を縣警署へ報告、當局はこの機會に常炭組合員を一掃して組合の潰滅を期すべく方針一決、堀部特高課長は在久間警部外特高課員二名と共に急遽來平總指揮に當ることになつた、平署は翌十日拂内郷村大字綴字上坪のアデトを襲つて大井川基司市村政美の兩指導分子外組合員數名を檢査取調へた結果、十八日夜に至つて最高オルグのアデトが内郷村白水阿彌陀堂付近にあること判明、同日夜警員十數名が檢査に向つたが家主の話しにより一ヶ月程前から留守だが今度平町へ轉居するので十九日荷物を取りに行くからとの便りがあつたといふので翌十九日同家付近

日移轉して来たばかりの男女あるを探知、平署川島特高主任高松巡査が様子を探るとこの兩名は晝間もガラス戸を閉ざし決して外出せぬとのことにてつきり佐藤、小川の兩名であると睨み捜査本部へ報告した、堀部特高課長は即時佐久間警部以下十數名の警官と共に出動アデトを包圍し先づ川島特高主任が役場戸籍係に

變裝して屋内に入り、二間答して居るうちと眺めた台所に去る十九日山代吉宗の母を發見したので手を高く舉げて警員に合圖し隣りに捕縛した、時に廿九日午前十一時半であつた、尙押入れから大型柳行李に詰められた各種機關紙不穩文書を押収して引き揚げた

## 常炭幹部銘々傳

### 佐藤、大井川は本郡生れ

日彌常炭オルグ、磐城、礦、第三斜坑、礦業事務所、古河礦業好開礦オルグ小川治雄は千葉縣山武郡千代田村山田一六七五に生れ昭和二年三月水戸高専卒業、同年四月東京大經濟學部入學後、京大の社會科學研究會執行委員長後藤壽夫(小説家林房雄)のレポーターを勤め漸次地下運動に暗躍、昭和三年五月三・一五事件で警視廳に檢査起訴され控訴中昭和七年三月警視廳のたぬ保釋出所後千葉縣船橋町で療養中であつたが同年九月全協中央部に一大クレーターが決定されたとしたで本部から常炭アレンへ逃して赤化を計畫すべしとの指令を受けた縣下へ潜入、常炭最高オルグとして茶行商、花賣り等に化け込み暗躍を続け本年一月二十三日、三月十一日、五月九日の三回上京し本部と聯絡を取つてゐた、身長五尺五寸、柔道二段の猛者で頭腦明せき優秀なオルグとして本部から信頼されてゐた

## 最初は小説家志願

### 從兄に感化された大井川

大井川基司(三)は石城郡磐崎村藤原一農トラの五男に生る、家は相當の豪農であつた、小學校を優秀な成績で了り警城中學に進み大正十五年第二十六回生として卒業、昭和二年四月三高入學、在學中社會科學研究會行動隊に参加檢査されて退學處分、昭和五年五月歸郷、從兄大井川幸隆の紹介により常炭組織運動に加盟、昭和五年六・一三事件に檢査され釋後後ひそかに上京、翌年東洋モスリン争議に參詣檢査されその後腦筋整理を著して歸郷、七年十月頃から再び常炭再建に着手した劍道四段で三高時代には全國學生劍道聯盟のナンバーワンとして大連、ハルビン等へ遠征したこともある、三高入學時、小説家を志した程で文章の轉向聲明に對する抗議書を書き送るといふ

## 首腦者五名中の 紅一點・佐藤ヒロ

### 四倉町「柳の湯」の娘

起訴された五名の首腦者中の唯一人の女性佐藤ヒロ(三)は石城郡四倉町新町一五五父福松(三)母イソ(三)の間に七人の兄弟中の四女として生れた父は錢湯「柳の湯」を営んでゐる、ヒロは小學校を首席で卒業して警視廳高女へ入學、大正十四年三月二番の成績で第十三回生として卒業、同年四月日本女子大學家政科に入學在學中社會科學研究會に加盟女子大S・R責任者、學務責任者となり退學する、昭和四年四月茨城縣助川町日立製作所事務員となり五年八月頃から全協日本金屬勞働組合支部組織運動を起し十月解雇される、爾來一時職線から退き四倉町の自宅で自ら番台に座つて家業を手傳つてゐたが昨年六月日彌オルグ坂本某に勧誘されて常炭の指導部員となり同年十一月坂本に代つて小川治雄がオルグとして来るやそのハウスキーパーとなり町田坑分會オルグ、警視廳業務所オとして表面裁縫師と見せかけ警視廳の選炭婦を組合に引入れてゐた

## 最近の心境を 語る

獄中から姉に宛てたヒロの手紙  
獄中の佐藤ヒロが去る七日付で姉のさん(四)に宛てた手紙は最近の彼女の心境をよく物語つてゐる

## 姉は語る

姉のさんは語る  
貧しい中から父が可愛がり女子大學へなどやつたのが間違つた、五年の秋日立を解雇された時、夏まで家に訪ねて来たので變な男へまじつたが秋近い頃四倉町の某銀行頭取の息子さんと一緒に旅行が不透明となつた、それで行き先が不明なまま前に女子大學に於て問題を起した時には生れつき汽車の嫌な父親が夜行列車に流して訓戒しましたが今度は父も身体が弱つてゐますし母も心臓病で寝てゐますので未だ知らず居ります、妹から来る手紙やこちらから送つてやる荷物は隣家の佐藤さんに纏めて頼んで家の者に氣付かれないやうにして唯の轉向だけを祈つて居ります